

図 2-1-2-13 八郎潟および周辺域におけるシジュウカラガンの月別の日認個体数(2004 年 9 月～2014 年 8 月) (注)日個体数=調査区別の 10 年間合計個体数÷調査区別の調査日数

#### (e) そのほかのまれに渡来するガン類

八郎潟およびその周辺域では、前述したマガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガン、オオハクチョウ、コハクチョウ以外に、まれに少数が渡来するガン類として、サカツラガン、カリガネ、コクガンが記録されている。

#### ○サカツラガン

本種は、2006年、2007年、2008年、2009年および2011年に、小友沼もしくは八郎潟干拓地西部や南西部で1～2羽が確認された（図 2-1-2-14）。

#### ○カリガネ

本種は、2009年2月に八郎潟干拓地の南西部で1羽が確認された（図 2-1-2-15）。

#### ○コクガン

本種は、2005年12月に八郎潟干拓地の南西部で9羽が確認された（図 2-1-2-15）。

#### (f) ガン類

##### ● 過去10年間の八郎潟と周辺域における確認状況

ガン類（マガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガン、サカツラガン、コクガン、カリガネおよびガン類として記録されたものの総計）の出現傾向は、ガン類の中で最も個体数が多いマガンやヒシクイと類似する（図 2-1-2-16）。

すなわち、例年9月～10月に小友沼や干拓地の北部に渡来したグループは、その後11月～1月に干拓地内の広域に分布を広げ、さらに2月～3月には調整池東部とその周辺域に数1000羽～数10万羽が集中する。4月には西部承水路付近に、数羽～数10羽のみが見られる。また、5月には周辺域南西部の船越で数羽が記録されている。

##### ● 最近1シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013年9月／2014年8月シーズンは、10月～11月に小友沼と八竜（周辺域北部）に約1,000～7,000羽が渡来した。厳冬期の12月～1月は数100～数1,000羽が主に干拓地南西～北西部（A、B、H地区）とその対岸の周辺域（追迫、五明光など）を利用した。渡去前の2月～3月は、干拓地南西～南東部と調整池および湖東に多数が集中し、特に調整池東部では20万羽以上が記録された。

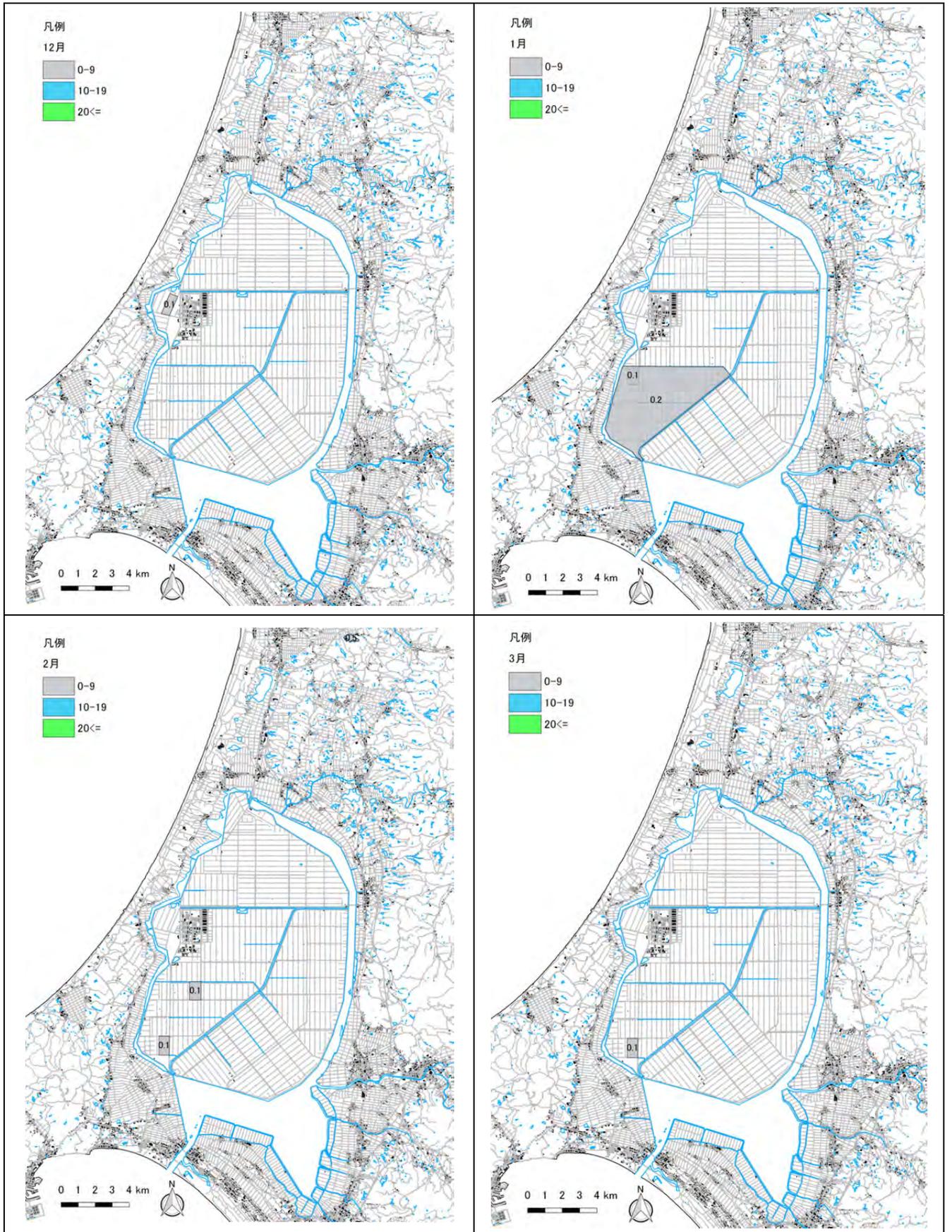


図 2-1-2-14 八郎潟および周辺域におけるサカツラガンの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月)(注)日個体数＝調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

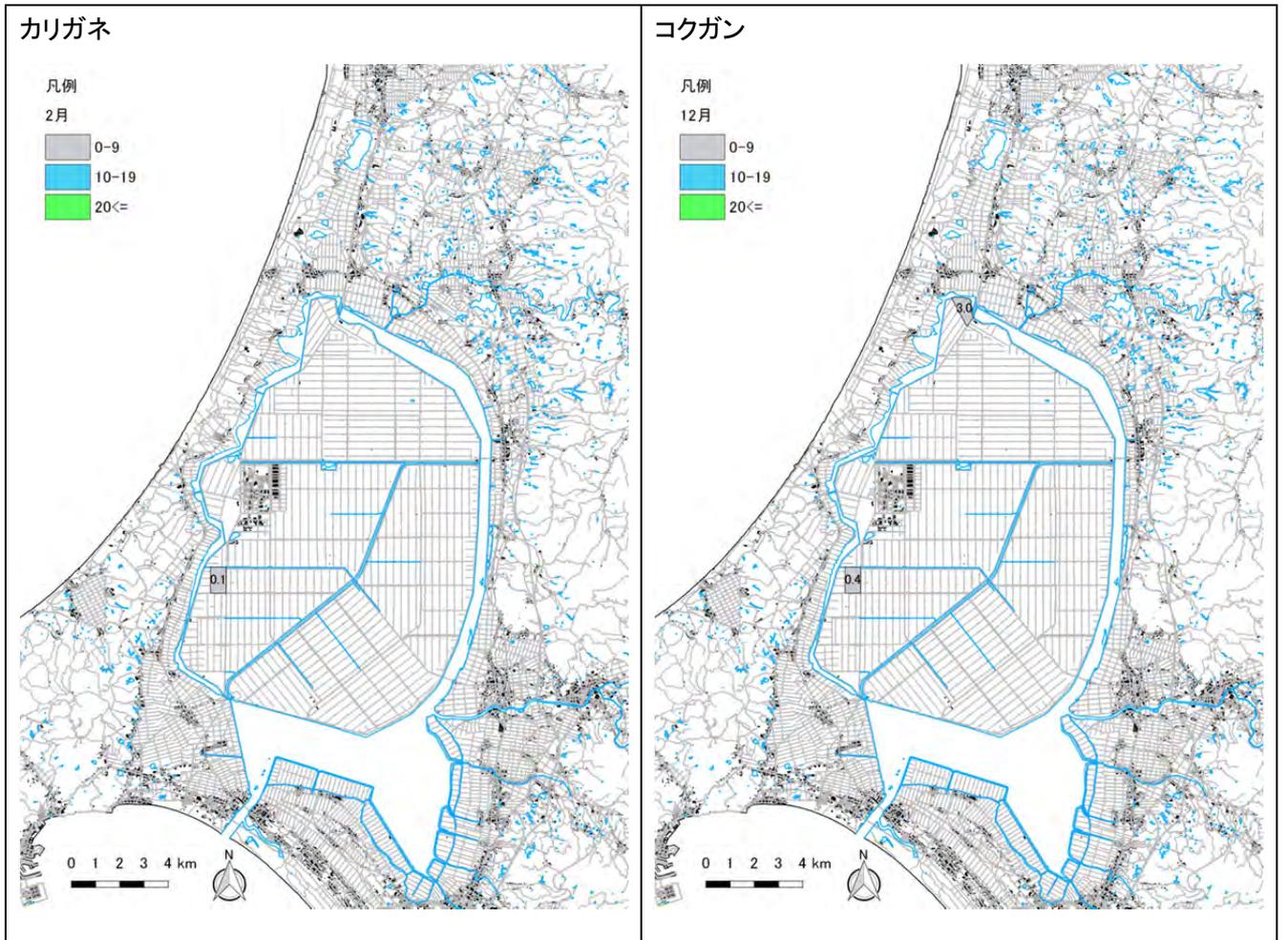


図 2-1-2-15 八郎潟および周辺域におけるカリガネ、コクガンの月別の日個体数  
(2004年9月～2014年8月)

(注) 日個体数 = 調査区別の10年間合計個体数 ÷ 調査区別の調査日数

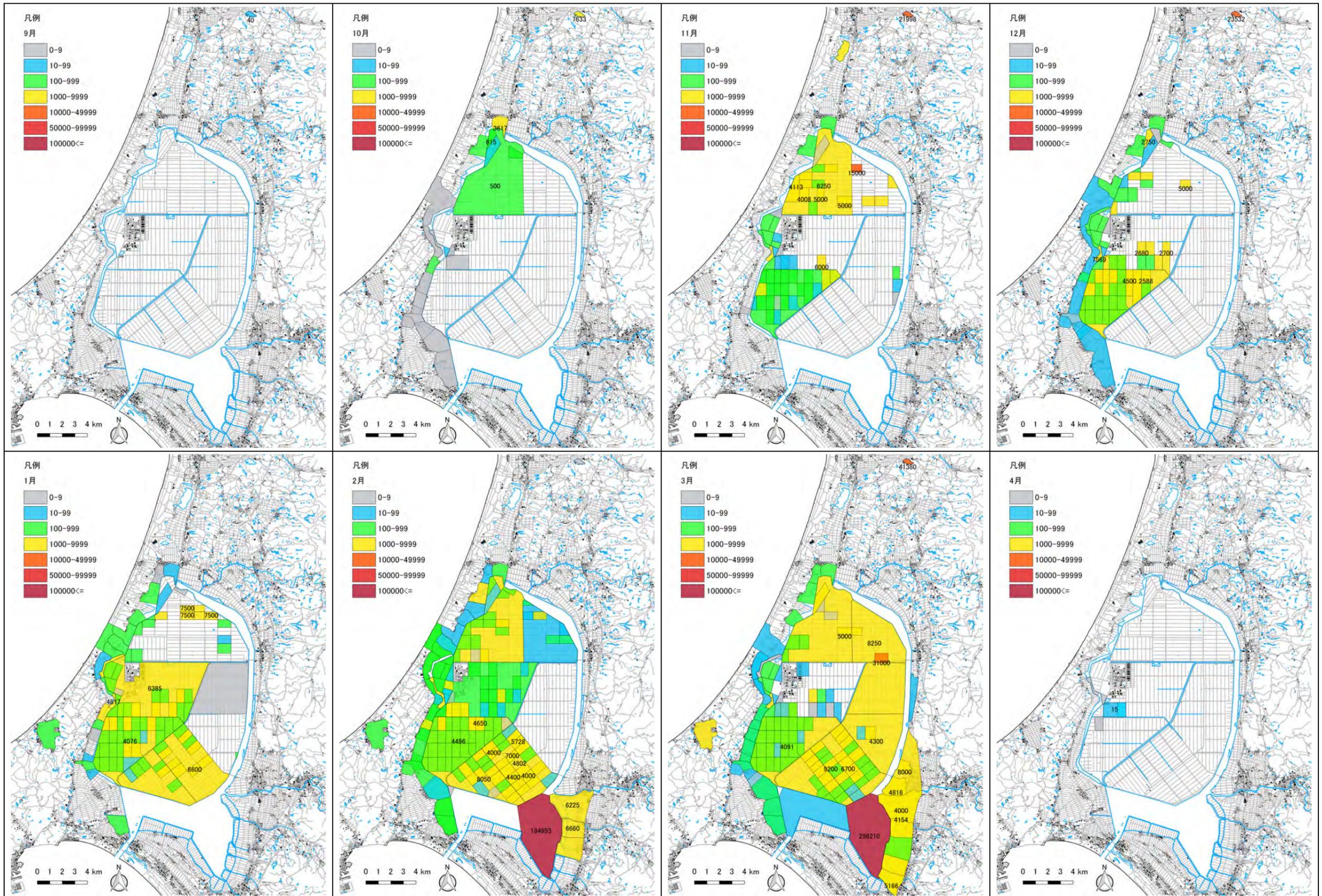


図 2-1-2-16 八郎潟および周辺域におけるガン類の月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

## ② ハクチョウ類

### (a) オオハクチョウ

オオハクチョウの観察結果を図 2-1-2-17～図 2-1-2-19 に示した。オオハクチョウは、八郎潟およびその周辺域に毎年 11 月～3 月にかけて渡来する。また 5 月～7 月に、傷病個体が数羽見られることがある。

#### ● 過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別の個体数（1 調査日当たり）を比べると、1 月～2 月にピーク（10 年間中央値で 75 羽）となる。2011 年以前は毎年数 10 羽～500 羽程度が確認されていたが、2012 年 10 月に 1,125 羽、2013 年 1 月に過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）で月別個体数／日としては最も多い 2,227 羽確認された。

#### ● 過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は、例年 10 月に調整池や西部承水路周辺に渡来する。11 月～2 月の越冬期間は、主に西部承水路とその周辺で数羽～100 羽が見られる。3 月の渡去前もほぼ同様の地域で認められる。また、特に本種が集中するのは船越（周辺域南西）で 1 月、3 月に 100 羽以上が認められる。船越は秋(10 月)に最初に渡来する個所の一つでもある。

#### ● 最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月～11 月にかけて、防潮水門（調整地南端）、角間崎、保護区峙などに数羽が飛来した。その後厳冬期の 12 月～2 月は数羽～数 10 羽が、主に干拓地南西部（H 地区）とその対岸周辺域（本内、福川など）、保護区峙、西区などを利用した。渡去前の 3 月は、保護区峙に隣接する福米沢、本内に 280～350 羽が集中した（資料 4）。

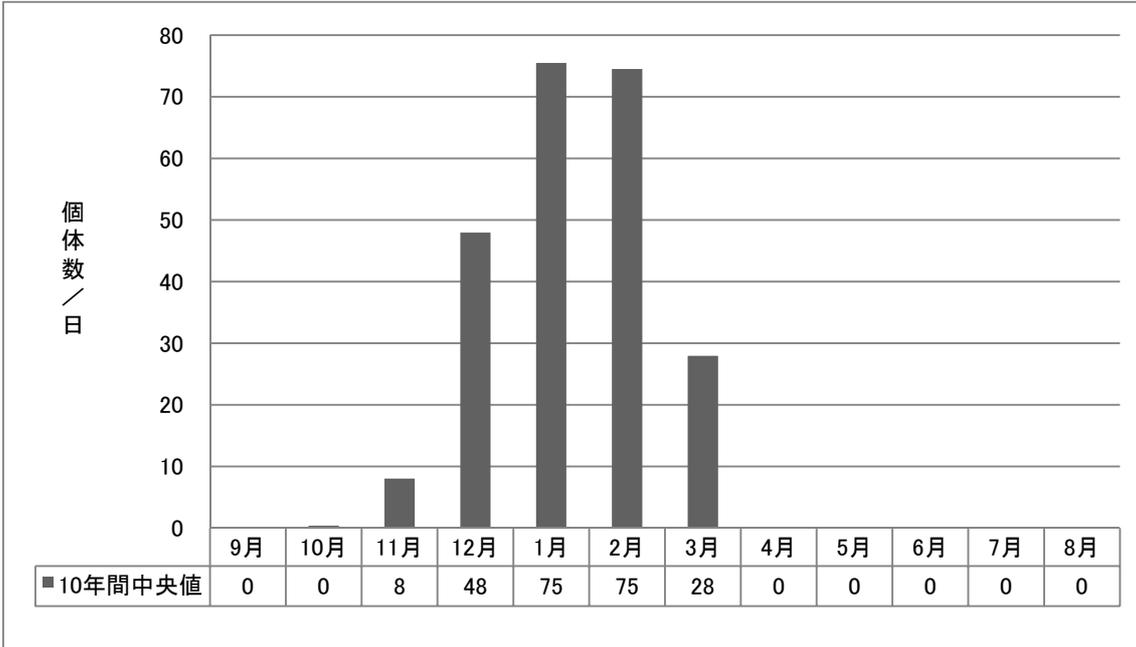


図 2-1-2-17 オオハクチョウの月別個体数／日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの個体数

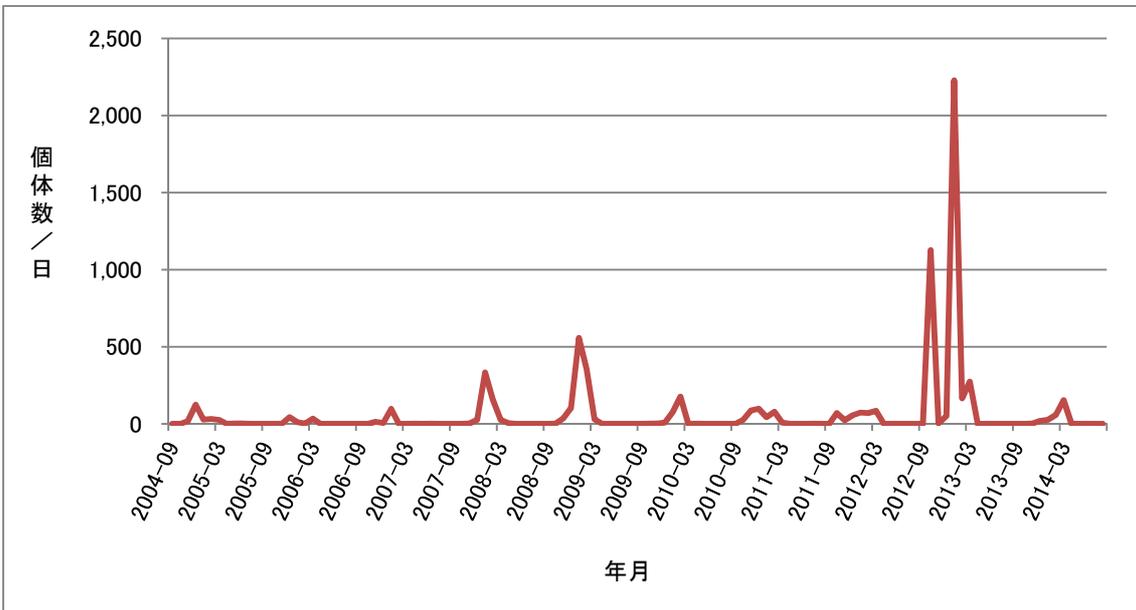


図 2-1-2-18 オオハクチョウの月別個体数／日の推移：2004年9月～2014年8月

(注)個体数／日：1調査日当たりの平均個体数

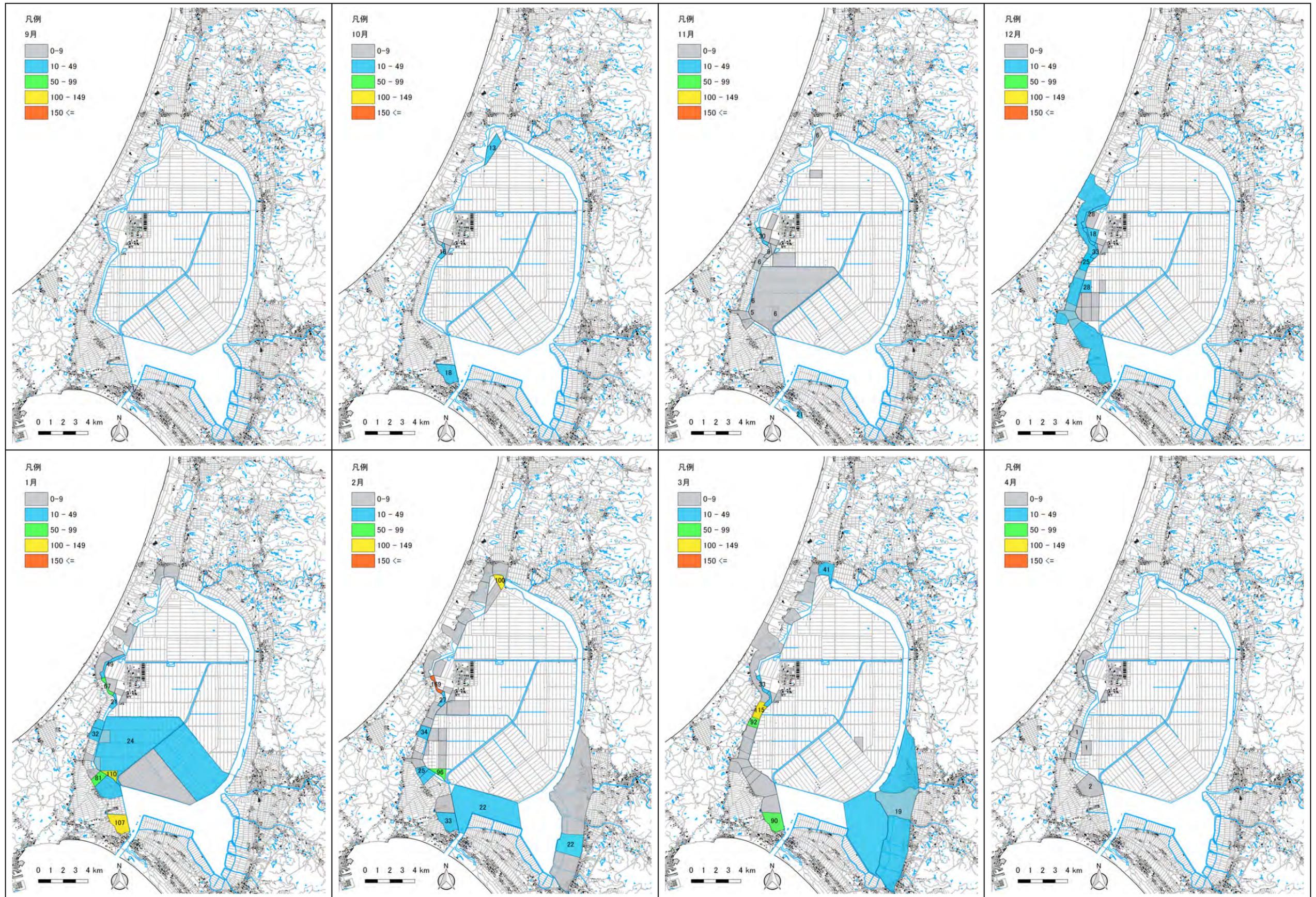


図 2-1-2-19 八郎潟および周辺域におけるオオハクチョウの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

## (b)コハクチョウ

コハクチョウの観察結果を図 2-1-2-20～図 2-1-2-22 に示した。コハクチョウはオオハクチョウより多く、八郎潟およびその周辺域に毎年 10 月～3 月に数 100～1,000 羽以上が渡来する。

### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別の個体数（1 調査日当たり）を比べると、12 月にピーク（10 年間中央値で約 360 羽）となる。また、2004 年 12 月に過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）で月別個体数／日としては最も多い 2,092 羽確認された。

2011 年 12 月と 2012 年 12 月は 2 年続けて 1,000 羽以上が確認されたが、2013 年 12 月は最大約 400 羽であった。

### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は 10 月に小友沼や調整池や西部承水路周辺に渡来する。11 月～2 月の越冬期間は、オオハクチョウ同様、主に西部承水路とその周辺で数 10 羽～数 100 羽が見られる。3 月の渡去前もほぼ同様の地域で確認される。

本種の利用が多い周辺城南西部の NHK 向いなどでは、1 月～2 月に約 500 羽～1,000 羽が記録される。なお 5 月～7 月にも傷病個体と思われる数羽が記録されている。

### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月～11 月にかけて、干拓地南西部（H 地区）とその対岸周辺域の祝田橋、潟端、福川などに数 10 羽～500 羽が渡来した。その後、厳冬の 12 月～2 月は、数 10～200 羽が干拓地南西部（A、H 地区）の一部、保護区畔、西区、角間崎などを利用した。渡去前の 3 月は、福米沢と調整池東部および湖東一帯（井川、妹川、虻川）に数 100 羽～1,350 羽が集中した（資料 4）。

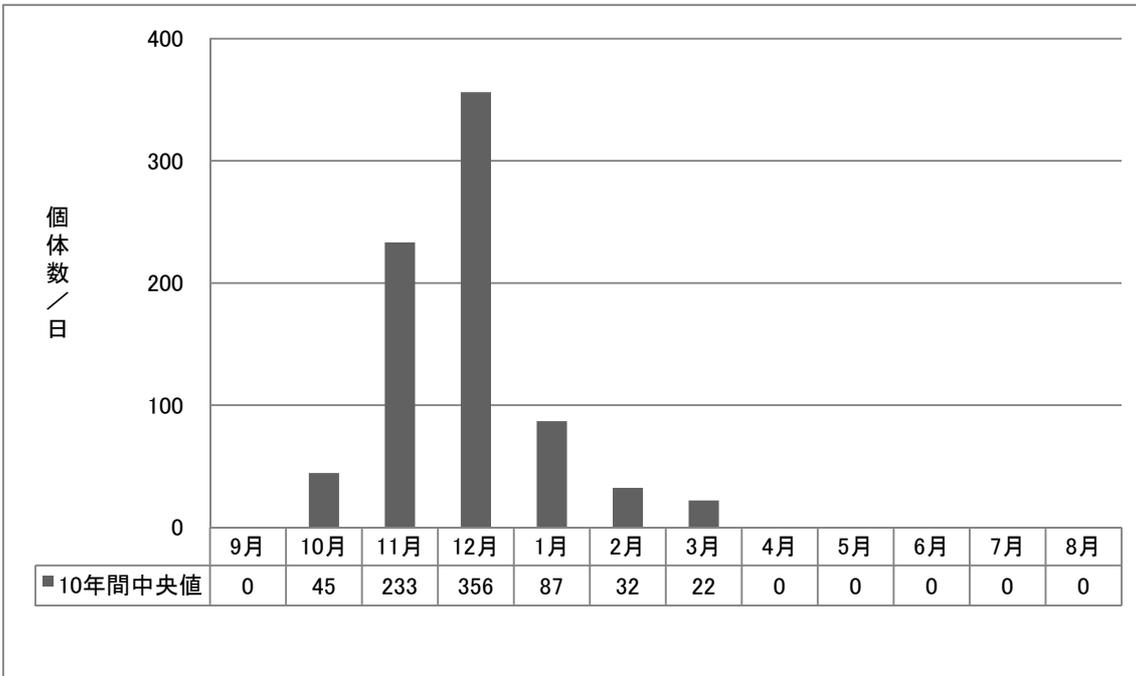


図 2-1-2-20 コハクチョウの月別個体数／日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの個体数

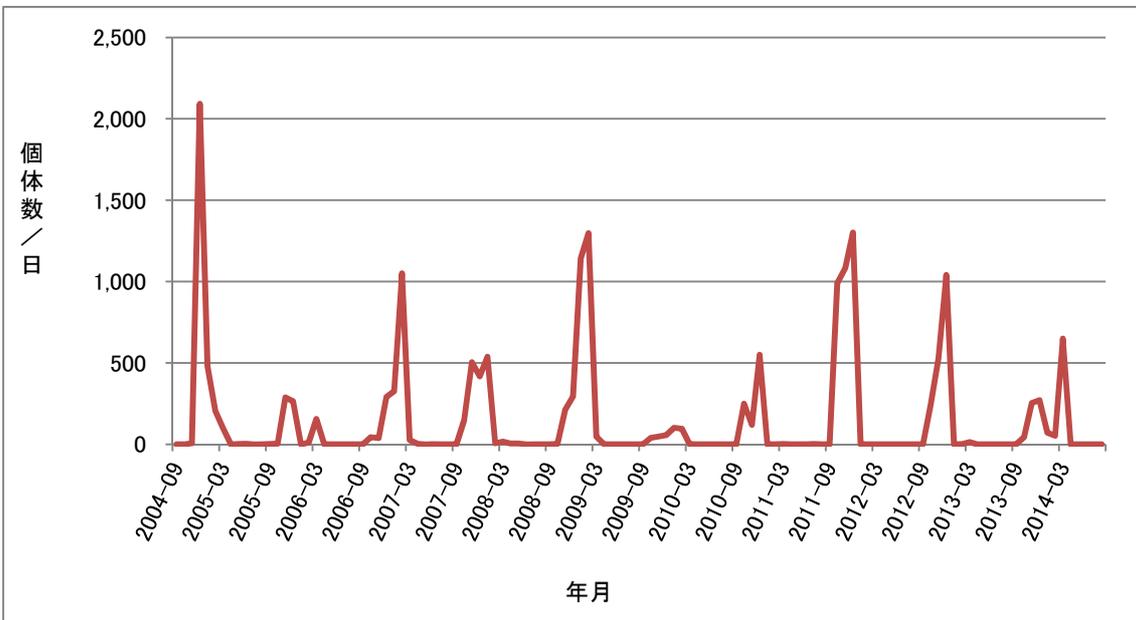


図 2-1-2-21 コハクチョウの月別個体数／日の推移(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの平均個体数

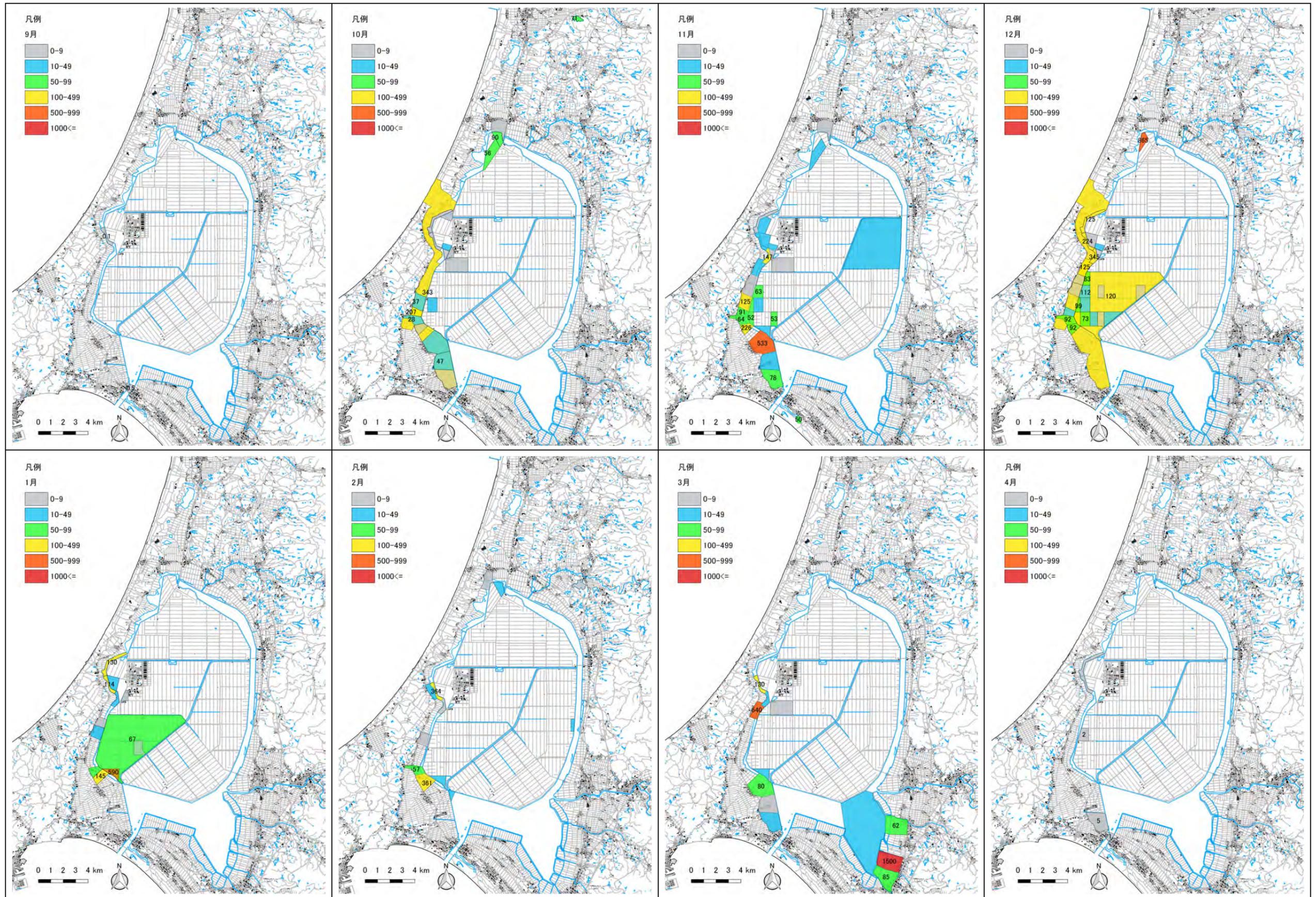


図 2-1-2-22 八郎潟および周辺域におけるコハクチョウの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

### (c)ハクチョウ類

#### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

例年、ハクチョウ類（オオハクチョウ、コハクチョウ、アメリカコハクチョウおよびハクチョウ類の総計）の出現記録は、10 月～1 月にかけては西部承水路とその周辺に多く、渡去前の 2 月～3 月は、干拓地西部に加えて調整池東部、湖東一帯に多く見られる。また小友沼では 10 月～2 月に数 10 羽～数 100 羽が記録されるが、渡去前の 3 月は 1,000 羽以上が集中する（図 2-1-2-23）。

#### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月～11 月に保護区畔、西区、若美の一部（船越～祝田橋など）、防潮水門などに数 10 羽～530 羽渡来した。厳冬期の 12 月～2 月は、数 10～数 100 羽が、干拓地南西部（H 地区）とその対岸周辺域（潟端、堀川など）を利用した。渡去前の 3 月は、福米沢、本内、調整池東部と湖東一帯（井川、妹川、虻川）などに、数 100 羽～1500 羽が集中した（資料 4）。

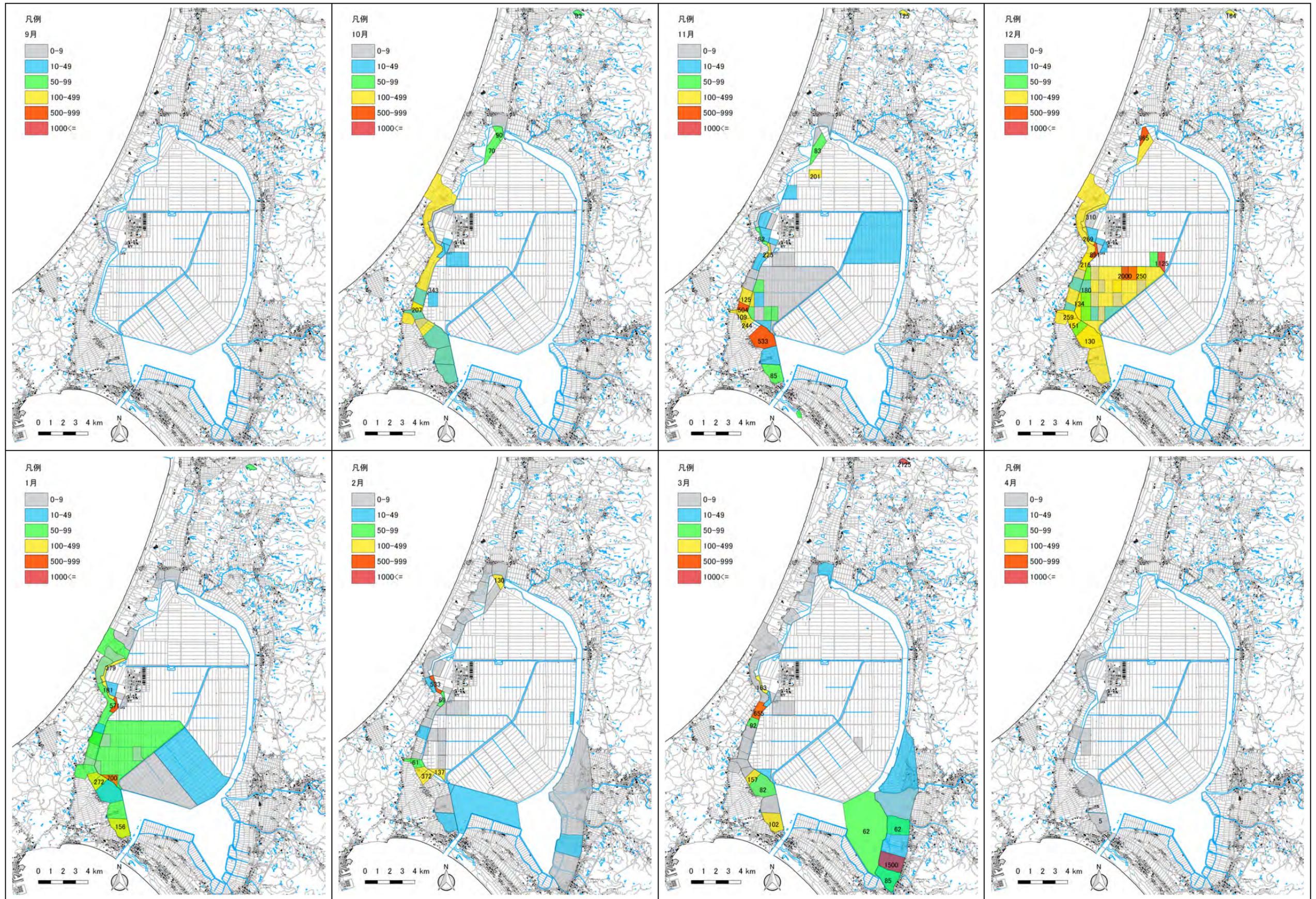


図 2-1-2-23 八郎潟および周辺域におけるハクチョウ類の月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

### ③カモ類

#### (a)コガモ

コガモの観察結果を図 2-1-2-24～図 2-1-2-26 に示した。コガモは八郎潟およびその周辺に毎年 9 月～5 月に渡来し、カモ類の中で最も個体数が多く、ピーク時には 5,000 羽～1 万数 1,000 羽が見られる。

#### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別個体数（1 調査日当たり）を比べると、渡来時の 11 月にピーク（10 年間中央値で約 3,100 羽）が見られ、渡去時の 3 月～4 月は渡来時の 10 分の 1 以下となる。また、2010 年 11 月、過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）の月別個体数／日としては最も多い約 18,000 羽が確認された。

#### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は例年 9 月、主に西部承水路周辺に渡来し、11 月にかけて特に芦崎、干拓地内 A36 地区などで 10,000 羽以上記録される。厳冬期の 1 月～2 月は、西部承水路南部の NHK 向いや潟端地区で数 100 羽～数 1,000 羽が見られる。渡去前の 3 月～4 月も西部承水路周辺に多い。

#### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月～11 月に芦崎（周辺域北西部）、干拓地 A36、祝田橋～福川（周辺域南西部）に 1,000～6,000 羽が渡来した。厳冬期の 12 月～2 月は、数 10 羽～900 羽が大口（周辺域北西部）、A36、保護区ねぐら、祝田橋など比較的限られた範囲を利用した。渡去前の 3 月～4 月は、保護区畔や A36 とその周辺に数 10 羽～720 羽が集中した（資料 4）。

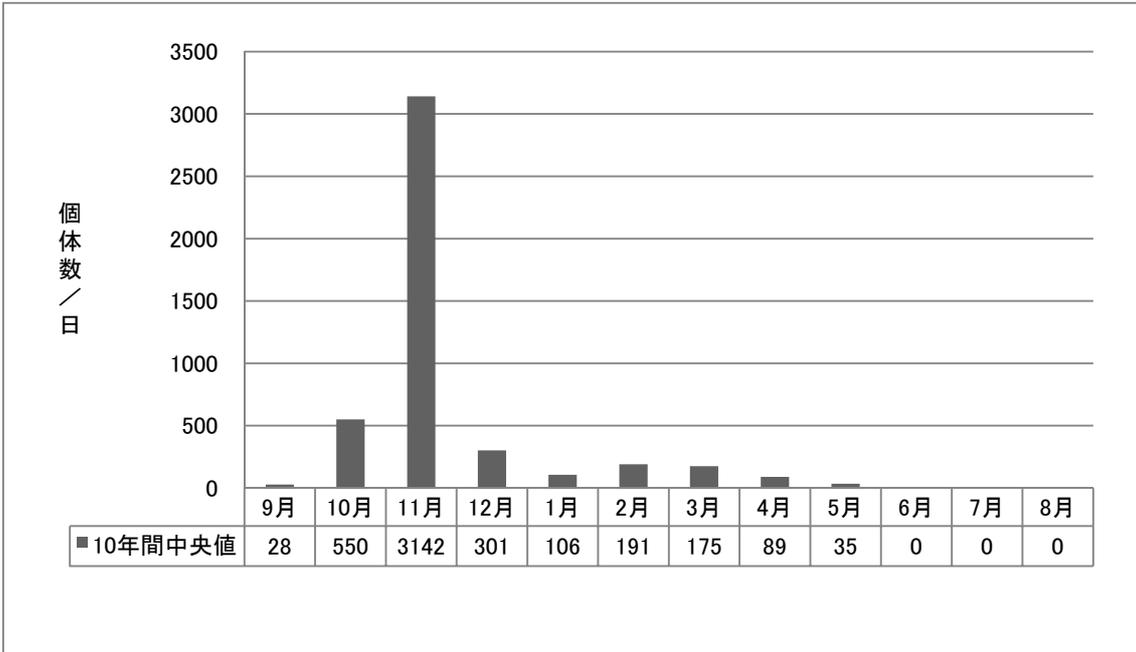


図 2-1-2-24 コガモの月別個体数／日の 10 年間中央値(2004 年 9 月～2014 年 8 月)

(注)個体数／日： 1 調査日当たりの個体数

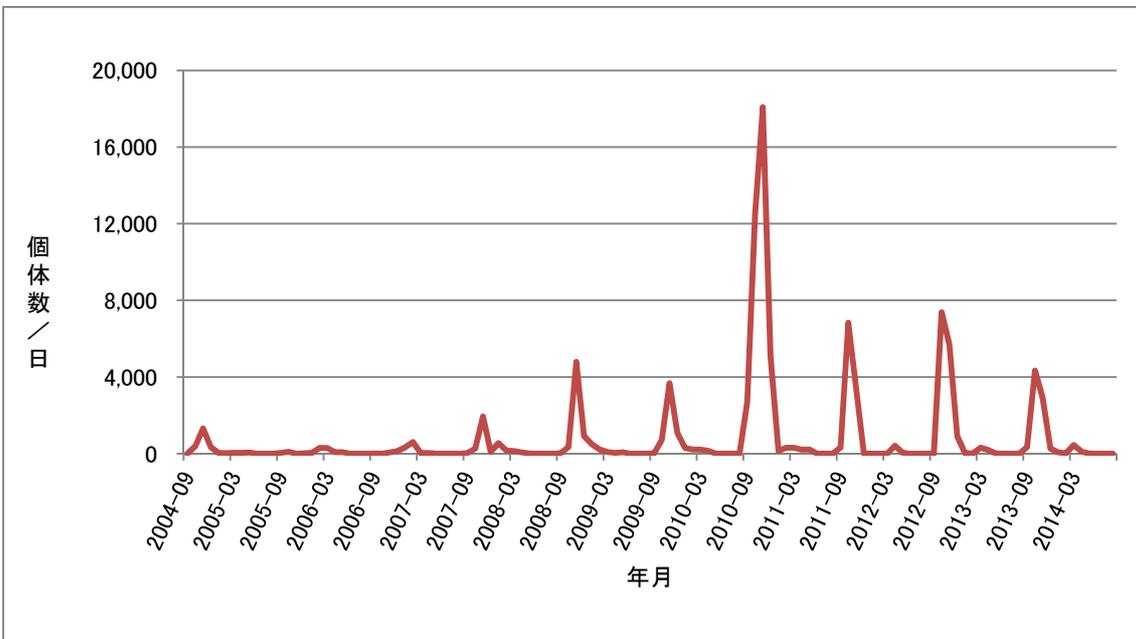


図 2-1-2-25 コガモの月別個体数／日の推移(2004 年 9 月～2014 年 8 月)

(注)個体数／日： 1 調査日当たりの平均個体数